



PRESS RELEASE

令和8年6月24日

国立大学法人琉球大学

株式会社みずほフィナンシャルグループ

株式会社みずほ銀行

琉球大学とみずほフィナンシャルグループ

ブルーエコノミー分野における共同研究開始について

～海洋への負荷低減を実現する「次世代型陸上養殖」の社会的インパクト評価と効果的な社会実装～

国立大学法人琉球大学（学長：喜納育江、以下「琉球大学」）と株式会社みずほ銀行（頭取：加藤勝彦、以下「みずほ銀行」）、株式会社みずほフィナンシャルグループ（執行役社長：木原正裕、以下「みずほFG」）は、海洋環境の保全と持続可能な経済成長の両立をめざす「ブルーエコノミー」分野における共同研究を開始します。

地球温暖化の進行に伴い、海洋環境の悪化や水産資源の減少が深刻化しています。こうした課題への対応として、海の保全と経済発展の両立をめざす「ブルーエコノミー」への注目が世界的に高まっています。

四方を海に囲まれた日本にとって、海洋資源の保全と関連産業の育成は、持続可能な社会の実現に欠かせないテーマです。その実現には研究開発に加え、社会実装・産業化を進めるための連携体制や、継続的に取り組みを拡大できる仕組みづくりが重要になります。

かねてより、琉球大学では、COI-NEXT^{※1}の取り組みの一環として、資源循環型の新たな食料生産システムの構築を進めており、その中核テーマの一つとして、99%以上の水を循環再利用し海洋への排水をなくす閉鎖循環型養殖により、海洋への負荷を低減し、陸上で養殖を行う「次世代型陸上養殖^{※2}」の研究開発に取り組んできました。

沖縄は広大な亜熱帯の海に囲まれ、サンゴ礁生態系など世界的にも貴重な自然環境を有する地域であり、琉球大学はその保全に関する知見と、「次世代型陸上養殖」に関するトップレベルの研究知見を蓄積しています。

本共同研究では、こうした琉球大学の研究知見と、総合金融グループとして広範なネットワーク、金融サービス、コンサルティング力を有する〈みずほ〉の強みを掛け合わせ、みずほFGが国際的なフレームワーク等も踏まえながら「次世代型陸上養殖」がもたらす社会的インパクトの分析・評価および価値の可視化を推進します。

また、みずほ銀行は可視化された価値に基づき、資金調達手法、事業化の検討を通じて社

PRESS RELEASE

会実装に向けて伴走します。

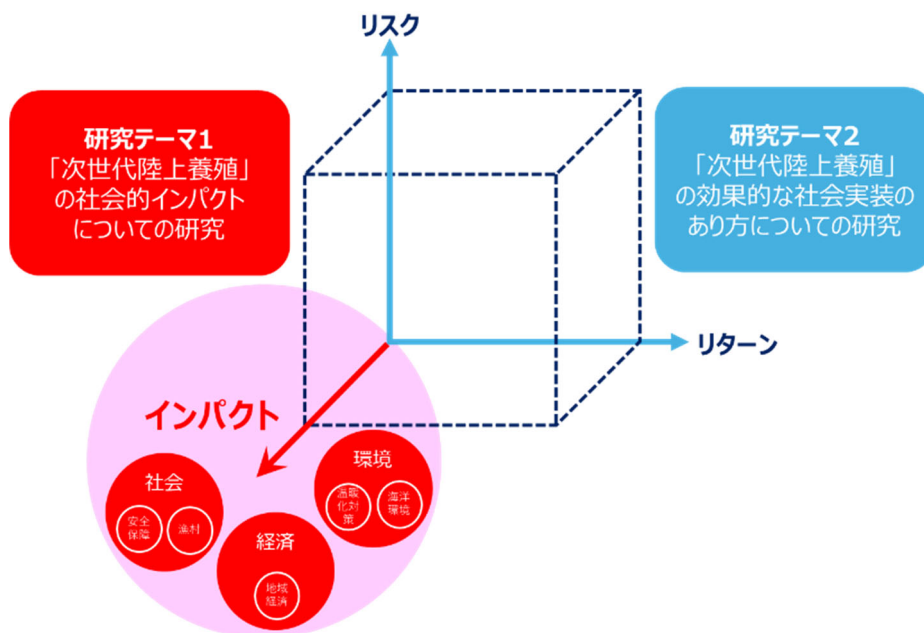
みずほFGによる全体設計・連携体制の整備と、みずほ銀行による資金面・実行面の支援を一体で進めることで、社会実装・産業化を推進する連携体制の構築と、取り組みを継続的に拡大できる仕組みづくりに取り組みます。

【本共同研究における主な取り組み】

1. 「次世代型陸上養殖」の社会的インパクトについての研究

「次世代型陸上養殖」がもたらす「社会的」、「経済的」、「環境的」価値について、分析・評価を実施し、社会的インパクトを最大化する事業モデルのあり方について研究します。

【インパクト評価の位置づけ】



2. 「次世代型陸上養殖」の効果的な社会実装のあり方についての研究

「次世代型陸上養殖」をより効果的に社会実装するために必要な取り組みについて研究し、早期の事業化をめざします。

気候変動、資源循環、自然資本・生物多様性といった環境課題は相互に関係しており、単独では解決できない複雑性を抱えています。そのなかで、生命の源である「水」は、森から川、そして海へと、さらに大気や土壌、産業や都市、人々の生活へとめぐる循環を通じて多



PRESS RELEASE

様な領域を有機的につなぎ、環境と社会・経済の基盤を支える大きな役割を果たしています。

みずほグループは、この「水がつなぐ世界」への取り組みこそが、気候変動をはじめとする社会課題解決と経済成長の両立を実現し、かけがえのない青い地球を次世代へつなぐ鍵になると考えています。

琉球大学は、持続可能な社会の実現に向けた教育・研究・社会実装を推進しています。本学が代表機関として進めている「琉球大学 COI-NEXT」では、水を介して陸上養殖と農業を結び付ける「農水一体型サステイナブル陸上養殖」の沖縄モデルを開発し、水資源の有効活用、資源循環、食料安全保障の強化を同時に実現することをめざしています。

また、その成果を沖縄から国内外へ展開するとともに、高付加価値な産業創出と次世代人材の育成を推進しています。

このような取り組みは、水の循環を起点として環境・社会・経済価値の創出をめざすみずほFGの「水がつなぐ世界」の理念と軌を一にするものです。

※1：琉球大学 COI-NEXT は科学技術振興機構の共創の場形成支援プログラム。

「資源循環型共生社会実現に向けた農水一体型サステイナブル陸上養殖のグローバル拠点」「私たちは農業と水産業の垣根をとりさり、世界の若者が主役として食を育て提供する循環社会を実現する。」を拠点ビジョンに掲げ、産学官の多様なステークホルダーとの共創を通じて、資源循環型の新たな食料生産システムの構築に取り組むプロジェクト。

※2：次世代型陸上養殖は、琉球大学が研究開発を進める「農水一体型サステイナブル陸上養殖」システム。

環境負荷を最小限に抑えることにより「持続性」と「事業性」を両立し、資源循環・サーキュラーエコノミーを実現。